

小学校教師の体育好き・体育嫌い

ー子どもを体育嫌いにさせる教師行動との関連性ー

Primary school teachers' attitudes toward Physical Education
may or may not affect their students' attitudes toward Physical Education

熊谷 浩明 池田 拓人
KUMAGAE Hiroaki IKEDA Takuto
(和歌山市立宮前小学校) (和歌山大学教育学部)

抄録：本研究の目的は、小学校教員を対象として教科体育に対する意識及び指導方法に関するアンケート調査を行い、体育好きの教師と体育嫌いの教師による指導方法、体育の位置づけの違いを明らかにした上で、教師の体育好き・体育嫌いが子どもを体育嫌いにさせる教師行動とどのような関連性があるのかを明らかにすることである。研究の結果、体育好きの教師と体育嫌いの教師のそれぞれ陥りやすい教師行動の傾向が示された。

キーワード：小学校教師、体育好き、体育嫌い、教師行動

1. はじめに

今日の小学校体育は、生涯スポーツの基礎教育の立場を強調し、運動に対する愛好的態度の育成と体力の向上などを目標に掲げている。しかし、運動やスポーツの楽しさ、スポーツにおける人間関係の楽しさを正しく教えるべき体育授業の場で「体育嫌い」「運動嫌い」の子どもが実際には存在している。これらの多くは体育の授業の実践により、子どもたちの運動への興味・関心に影響を及ぼしていることが関係していると考えられる。そして、体育の授業での様々なきっかけを通して、体育・運動が好きになったり、嫌いになったりすることに繋がる。

また、近年では子どもの体力低下が叫ばれている。室内ゲーム機の普及や塾通い、治安の悪化などにより外で遊ぶ機会が減少したり、遊ぶ場所がなくなるなど、社会・環境の変化に伴い、このような事態が起きていると考えられる。このため、子どもたちの運動の場を必ず確保できる「体育」の重要性は、より一層増している。

体育は昔から子どもたちに好かれる教科の一つである。岡野ら¹⁾が行った調査でも体育を「好き」と答えた子どもたちは8割を超えた。しかし裏を返せば、約2割に満たない子どもたちは体育が嫌いであるという結果も得られた。賀川ら²⁾によると、学齢期に体育を嫌いになってしまった子どもは、将来も運動嫌いになってしまうと指摘されるように、小学校児童の体育嫌いは生涯にわたる運動実践に大きな影響を及ぼすと言える。

すべての子どもたちが体育を好きになることは難し

いことかもしれないが、体育嫌いになる原因はどこにあるのか。そのような研究は過去に数多く報告されている。

例えば、阪田³⁾は、体育嫌いに関する理論的研究のなかで、教師が叱咤激励をするだけでどうすればできるようになるのかの方法を教えなかったり、目先の記録・結果だけを評価するなど、教師の指導が体育を嫌いにさせる要因に関係していることを指摘している。

伊藤ら⁴⁾も、体育嫌いの生起に関わる要因として体育教師の性格、指導理念、指導方法などを挙げている。

また、兵頭ら⁵⁾は体育嫌いを作る要因として、体育授業の場における教師行動に着目し、小学生を対象に教師の指導法について調査研究を行った結果、できない子が劣等感を抱く授業、言われたとおりに動くだけの一方的な授業、優しさや親しみのない指導などが子どもを体育嫌いにさせる教師要因として示された。したがって、体育嫌いをなくすためには、教師自身に関わる要因と、教師の指導方法に関わる要因に目を向けることが必要であると指摘している。

一方、秦泉寺ら⁶⁾は、小学生を対象にするだけでなく、小学校教師も対象にして調査研究を行っている。小学生に対しては、子どもを体育・運動嫌いにさせる要因に関する内容を尋ね、その結果、「先生と一緒に運動しない」や「先生ができる人もできない人も同じ方法で教える」などの子どもを「体育嫌いにさせる教師行動」が明らかになった。また、教師を対象に行った調査では、教師自身が学生時代(小学校～大学)に「体育の授業が嫌いだった」、また「課外で自由にスポーツができるなら体育は教科に加えなくてもよい」などの

教科体育について否定的見解を持っている教師の割合が予想以上に高いことも明らかになった。そして、このような否定的見解を持つ教師が体育嫌いの児童を無意識のうちに再生産している可能性がある」と指摘している。

このように、子どもが体育を嫌いになるのは、教師による問題が大きく関係していることが先行研究でも数多く報告されている。しかし、それらの調査研究の多くは、子どもや学生を対象にしているものであり、教師を対象にしているものは数少ない。

ただ、体育は実技を中心とする教科であるため、他の座学中心の教科に比べ、子どもだけでなく教師個人の得手不得手や好き嫌いが出やすい傾向があると考えられる。もちろん、体育を嫌いだから授業が下手、つまり子どもが嫌がる授業をしているとは限らないし、また体育を好きであるからと言って、上手い授業が行えているとは限らない。「できる」と「わかる」は違うと言われるように、体育が好き、できるからといって良い授業が行えているとは限らない。

多くの先行研究では、子どもが体育を嫌いになるのは、画一的な授業や個々のレベルに合わない授業などといった教師の指導方法や、評価の仕方など、教師による問題が大きく関係していると指摘されている。

そこで本研究では、小学校教員を対象として、教科体育に対する意識及び指導方法に関するアンケート調査を行い、体育好きの教師と体育嫌いの教師による指導方法、体育の位置づけの違いを明らかにした上で、教師の体育好き・体育嫌いが子どもを「体育嫌いにさせる教師行動」とどのような関連性があるのかを明らかにすることを目的とする。

なお、本研究では、秦泉寺ら⁷⁾の先行研究で明らかになった「体育の嫌いな子どもの教師に対する要求」及び、教科体育に対する否定的見解を「体育嫌いにさせる教師行動」とする。

2. 研究方法

2. 1. 調査方法

和歌山市内の小学校5校に在職する教師100名(男性38名、女性62名)を対象に質問紙によるアンケート調査を実施した。調査は各学校の校長先生を通じて配布・実施されたため、回収率は100%であった。また、有効回答率も100%であった。

調査内容は、①プロフィールに関する項目(4項目)、②指導方法に関する項目(16項目、4件法)、③体育の位置づけに関する項目(17項目、4件法)の計37項目の設問とした。なお、②については秦泉寺ら⁸⁾の先行研究で用いた質問紙を参考に設問項目を作成した。これらの設問の冒頭で「あなたが行っている体育の授業について答えて下さい」と説明し、自分の授業について当てはまる程度を4件法(よく当てはまる4点～全然当てはまらない1点)によって回答を求めた。③については岡野ら⁹⁾の先行研究および秦泉寺ら¹⁰⁾の

先行研究で用いた質問紙を参考に設問項目を作成した。これらの設問の冒頭では「あなたの体育に対する考えを答えて下さい」と説明し、自分の考える体育の位置づけについて4件法(とても思う4点～全然思わない1点)によって回答を求めた。なお、②および③における設問は、先行研究より明らかになった「体育嫌いにさせる教師行動」から抽出したものである。

2. 2. 分析方法

アンケートの結果から体育好き群と体育嫌い群に分類して比較を行った。問1～問4については単純集計を行い、問5～問37については回答結果を点数化(ただし、問7、10、12、33、36、37は逆転項目)し、回答の平均値の相違を調べるためにt検定を行った。これらは全て5%未満を危険率とした。

3. 結果及び考察

3. 1. プロフィールに関する内容

プロフィールに関する質問項目は表1のとおり。

表1 プロフィールに関する質問

質問項目	
問1	あなたの性別は何ですか。
問2	小学校～大学までの体育の授業は好きでしたか。
問3	運動をすることが好きですか。
問4	現在、(授業以外で)定期的に運動をしていますか。

3. 1. 1. 体育の好き嫌いについて

表2は、体育好き・体育嫌いの人数・割合を示したものである。体育嫌いの教師が全体の約3割を占めていることがわかる。これは、教員志望の大学生を対象に行った予備調査²³⁾とほぼ同様の結果であった。

表2 体育好き・体育嫌いの内訳

	体育好き	体育嫌い	全体
人数(人)	69	31	100
割合(%)	69	31	100

3. 1. 2. 性別による体育の好き嫌いについて

図1は、男女別にみた体育好き・体育嫌いの割合を示したものである。体育嫌いの割合が、男性では2割に満たないのに対して、女性では4割近くを占めていることがわかる。先述の大学生への調査でもほぼ同様の結果が得られており、男性よりも女性の方が体育嫌いの割合が高い傾向にあることが確認できる。

平成22年度学校基本調査(文部科学省)によると、小学校教員の62.8%が女性である。すなわち、女性教員の割合が高い小学校現場では体育嫌いの教師の割合が高い可能性がある」と推測される。

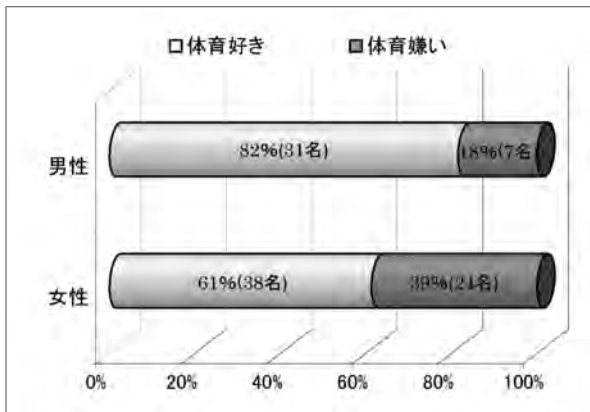


図1 性別による体育好き・体育嫌いの割合

3. 1. 3. 体育の好き嫌いとは運動好嫌について

図2は、体育の好き嫌いとは運動好嫌についての割合を示したものである。体育を好きな人のうち、現在においても運動をすることが好きな人の割合が極めて高いことがわかる。一方、体育が嫌いな人のうち、運動も嫌いな人が約6割にのぼることが示された。これは先行研究でも指摘されているように、学生時代に体育を嫌いになってしまうと、その後将来にわたって運動をすること自体が嫌いになってしまうということが関係していると考えられる。

ここで注目したいのは、体育嫌いのうち、約4割は運動が好きであると答えていることである。いわゆる「運動好きの体育嫌い」である。つまり、運動をすることは好きであるが、体育の授業は嫌いであるというもので、その原因は授業内容にあると考えられ、すなわち教師の指導方法・指導内容にその要因があると言えるのではないかな。

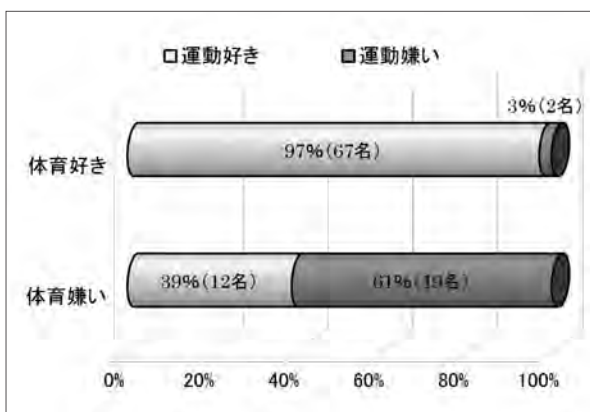


図2 体育の好き嫌いとは運動好嫌についての割合

3. 1. 4. 体育の好き嫌いとは運動習慣について

図3は、体育の好き嫌いとは現在の運動習慣についての割合を示したものである。体育嫌いの人の現在の運動習慣の割合については、前項における体育嫌いの人の運動好嫌の割合とはほぼ同様の結果が示されており、体育嫌いの人の運動好嫌とは現在の運動習慣には関連性があると言えるだろう。一方、体育好きの人について

は、前項では運動好きと答えた割合が非常に高かったのに対して、現在運動をしていると答えた人はその半分以下であった。すなわち「体育好きで、現在も運動している」人が運動好嫌の比率に比べるとかなり低くなっていることがわかる。これは、多忙な職業柄において運動をするための余暇時間が確保できなかったり、加齢にともなう身体的要因などから運動する機会が減ってきているなどの理由が考えられる。

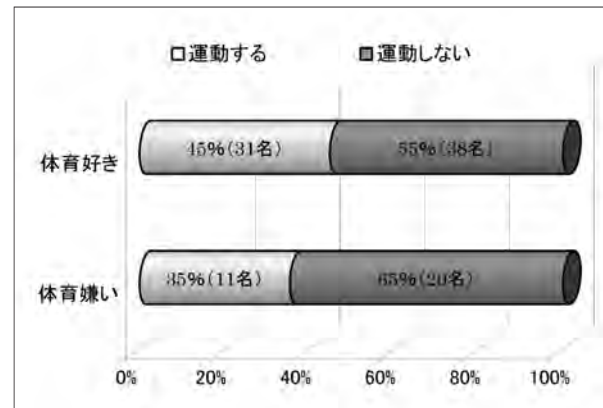


図3 体育の好き嫌いとは運動習慣についての割合

3. 2. 指導方法に関する内容 (表3)

指導方法に関する内容について、体育好きの教師と体育嫌いの教師で回答の平均値に相違があるかを調べるためにt検定を行った。体育好きの教師が有意に高い項目は「子どもを褒めるように心掛けていますか。」(p<0.05)、「子どもが嫌がる言葉を使うことがありますか」(p<0.05)、「勝敗をつけるなど、競争をする授業が多いですか」(p<0.05)、「子どもに任せた運営を取り入れていますか」(p<0.01)であった。上記4項目について、以下で考察を試みる。

①「子どもを褒めるように心掛けていますか。」

褒めるという行為は子どもを成長させる一つの手だてである。一方、叱って子どもを成長させるという手だてでもある。どちらを選択するかは、子どものタイプや場面にもよるが、褒められて嫌な思いをすることはないだろう。先行研究によると、教師はできる子どもばかりに目がいて、できない子どもをあまり見ようとしないことがあると指摘されている。子どもにとって、教師に褒めてもらえるということは自分のことを見てもらえている、認めてもらったという受容感を得ることで学習の意欲が高まり、教科に対して好意を持つようになる。

大学生を対象にした予備調査においても、体育好きの学生に比べて体育嫌いの学生は、小学校での体育の授業で先生があまり子どもたちを褒めていなかったと回答している。

この項目については、二つの群を比較してみると体育好き群が有意に高い値を示したが、体育嫌い群においても平均値が3.5点以上と高い値を示しており、体育

の好き嫌いに関わらず教師たちは、体育指導の場面において子どもたちを褒めるように心掛けていることがわかる。強いて言えば、体育好きの教師は自身が体育を好きになった要因の一つとして、学生時代の体育の授業で先生に褒めてもらったという体験をより多く持っていると考えられ、子どもの能力を伸ばす手だての一つであることを身をもって感じてきたから、体育の授業で子どもを褒めるように心掛けていると言えるのではないだろうか。

- ②「子どもが嫌がる言葉を使うことがありますか」
子どもが嫌がる言葉を使うということは、簡単に言

うと子どもを傷つける可能性があるということである。また、そうしたことにより運動に対する自信をなくしてしまったり、学習の意欲を低下させることもあるだろう。さらには、子どもが教師に対して不信感を抱くことで教師と子どもとの信頼関係が崩れてしまう危険性がある。子どもが感じる教師に対する好意度と教科（授業）に対する好意度には少なからず関連があると考えられ、先生が嫌いだからその教科が嫌いになってしまうということが子どもたちには時として見うけられる。つまり、体育嫌いの教師は、自身が体育を嫌いになった要因の一つとして、学生時代の体育の授業で先生に嫌な言葉を言われたという体験を持っている場

表 3 指導方法に関する内容についての回答結果

質 問 項 目		平均±標準偏差		t 検定	
問 5	子どもを褒めるように心掛けていますか。	体育好き	3.81±0.43]	*
		体育嫌い	3.58±0.62		
問 6	子どもを叱るとき、子どもの人格を考えていますか。	体育好き	3.68±0.50		n.s.
		体育嫌い	3.58±0.50		
問 7	子どもが嫌がる言葉を使うことがありますか。	体育好き	2.64±0.79]	*
		体育嫌い	3.03±0.71		
問 8	子どもと一緒に運動することが多いですか。	体育好き	2.88±0.72		n.s.
		体育嫌い	2.61±0.76		
問 9	どの子どもにも話しかけていますか。	体育好き	3.58±0.58		n.s.
		体育嫌い	3.39±0.67		
問 10	勝敗をつけるなど、競走をする授業が多いですか。	体育好き	2.51±0.63]	*
		体育嫌い	2.77±0.43		
問 11	グループで協力して行う活動を多く取り入れていますか。	体育好き	3.35±0.70		n.s.
		体育嫌い	3.42±0.62		
問 12	できる子もできない子も同じ方法で指導していますか。	体育好き	2.54±0.90		n.s.
		体育嫌い	2.65±0.95		
問 13	子どもに任せた運営を取り入れていますか。	体育好き	3.04±0.60]	**
		体育嫌い	2.61±0.76		
問 14	体育の授業時間以外でも、苦手意識を持つ子どもに教えていますか。	体育好き	2.88±0.81		n.s.
		体育嫌い	2.61±0.84		
問 15	子どもの意見を尊重した授業をしていますか。	体育好き	3.13±0.59		n.s.
		体育嫌い	2.97±0.66		
問 16	できない子どものために十分な時間を割り指導をしていますか。	体育好き	2.71±0.67		n.s.
		体育嫌い	2.65±0.55		
問 17	どの子どもにも真剣に教えていますか。	体育好き	3.84±0.37		n.s.
		体育嫌い	3.81±0.40		
問 18	子ども自身にはっきりしためあてをつかませようとしていますか。	体育好き	3.33±0.61		n.s.
		体育嫌い	3.45±0.51		
問 19	子どもの能力を引き出すように授業を行っていますか。	体育好き	3.26±0.59		n.s.
		体育嫌い	3.35±0.55		
問 20	子どもがやる気を持って取り組んでいると思いますか。	体育好き	3.33±0.53		n.s.
		体育嫌い	3.19±0.48		

*p<0.05、**p<0.01

問7、10、12 は逆転項目

合が多いと考えられる。ゆえに、自らの実体験にもとづき、子どもたちにできるだけ嫌がる言葉を使わないように心掛けているのではないかと推察される。

③「勝敗をつけるなど、競争をする授業が多いですか」
勝敗をつけたり、競争をさせると必然的に子どもたちの能力の差が顕著にあらわれる。スポーツ教材において競争をするという要素は切り離せないものであり、またそれによる楽しさが包含されていることは言うまでもない。ただ、それらを中心に据えたり、過分に取入れた授業を展開してしまうと、運動に対して苦手意識を持った子どもにとっては他人と比較されてしまうことで劣等感を抱いてしまう恐れがある。秦泉寺ら¹¹⁾の先行研究でも述べられているように、安易に競争へとかりたてる授業は、子どもを体育嫌いにさせてしまう危険性もある。そのため教師は、評価の方法について十分に留意する必要がある。

体育好きの教師は学生時代から運動が好き、または得意であったため、体育の授業においても勝敗をつけて競争し合うというスポーツの面白さである競技性を享受し楽しんでいたと考えられる。ゆえに、体育嫌いの教師に比べて、より競争をさせることにに対して肯定的または寛容であると推察される。

④「子どもに任せた運営を取り入れていますか」
子どもに任せた運営をするということは、子どもの自主性を重んじ、自分たちで考えさせて行動させる授業形態を行うことである。子どもに自主的な活動をさせられるということは、まずは子どもに対する信頼があるからこそできることであり、体育授業に対する自信の表れとも言えるかも知れない。しかしながら、これは十分な準備がなされていないと単に放任的な授業になってしまう危険性があることも注意しなければならない。前項で示されたように、体育好きの教師が競争を好んで、放任的な授業を展開してしまったなら、ただゲームや試合をやらせているだけ、遊ばせているだけのものになってしまう。体育好きの教師が陥る可能性がありうることで肝に銘じなければならない。

一方、体育嫌いの教師が子どもに任せた運営を取り入れずいわゆる教師主導の授業を行う傾向があるというのは、自分が体育を嫌いだからこそ頑張ろうという思いで、すべてを自ら主導して授業を進めてしまうのか、あるいは体育が得意ではないという自信の無さから子どもたちに任せる余裕がないのかはわからない。ただ、教師からの一方的な授業になってしまうと、子どもにとっては、ただやらされるばかりのつまらない授業になってしまう恐れがあり、体育を嫌いになる要因の一つと言える。それは、大学生への予備調査においても、体育嫌いの学生は体育好きの学生に比べて、小学校の体育の授業で教師が一方的な授業をしていたと答えていることからわかる。

3. 3. 体育の位置づけに関する内容（表4）

体育の位置づけに関する内容について、体育好きの教師と体育嫌いの教師で回答の平均値に相違があるかを調べるためにt検定を行った。体育嫌いの教師が有意に高い項目は「体育の授業は個人差への対応を大切にすべきだと思いますか。」($p<0.01$)であった。

先行研究においても、体育嫌いの子どもは先生が個人差の対応をしてくれないことを体育嫌いになる理由の一つにあげており、体育嫌いの教師も同様に学生時代のそうした体験を一つの要因として体育を嫌いになったことが考えられる。ゆえに、自分が教師として子どもたちに指導していく際には、個人差への対応を丁寧に心掛けていこうと考えているのではないかと。

一方、体育好きの教師は学生時代の体育の授業に対して概ね満足感を持っており、個人差への対応についてあまりストレスを感じることはなかったと推察される。体育が好きで、運動が比較的得意な立場にあるときは、個別の対応の必要性を意識することが少なかったであろう。ともすれば、教師は運動ができる子どもを基準にして、そのレベルに合わせた授業を展開してしまうことがある。運動が苦手な子どもは同じようにはできず、取り残されたような感覚に襲われ不満を抱くようになることが考えられる。体育嫌いの教師は、こうした子どもたちの気持ちを理解しやすかったのではないと言える。ただし、体育好き群においても平均値が3点以上と高い値を示しており、個別の対応への配慮が認められると言えよう。

体育の位置づけに関する内容についての項目では、「個人差への対応について」以外の項目では有意な差が認められなかった。体育の目的や教科の意義について問うた項目であるため、個人的な得手不得手や好き嫌いに関わらず教職教養を備えた現職教員ゆえに大きな差が見られなかったと考えられる。ちなみに、教員志望の大学生への予備調査では多数の項目において、体育好きと体育嫌いで有意な差が認められた。これは、教員志望とはいえ指導経験のない大学生はやはり自分本位で捉えて、体育嫌いの学生はそのまま体育に対する否定的な考えを回答していることが容易に推測でき、指導現場にある現職教員との相違は歴然であった。

表 4 体育の位置づけに関する内容についての回答結果

質 問 項 目		平均±標準偏差	t 検定
問 21	体育の授業は健康な身体をつくり、体力をつけることが目的だと思いますか。	体育好き 3.29±0.67	n.s.
		体育嫌い 3.26±0.77	
問 22	体育の授業は仲間作りをすることが目的だと思いますか。	体育好き 3.25±0.58	n.s.
		体育嫌い 3.32±0.48	
問 23	体育の授業は協力・助け合いなどの社会性を身に付けることが目的だと思いますか。	体育好き 3.26±0.59	n.s.
		体育嫌い 3.35±0.49	
問 24	体育の授業は運動技能を身に付けることが目的だと思いますか。	体育好き 3.22±0.59	n.s.
		体育嫌い 3.13±0.67	
問 25	体育の授業はストレスの発散、気晴らしをすることが目的だと思いますか。	体育好き 2.39±0.86	n.s.
		体育嫌い 2.61±0.72	
問 26	体育の授業は身体活動を拡大することが目的だと思いますか。	体育好き 3.16±0.66	n.s.
		体育嫌い 3.06±0.68	
問 27	体育の授業は身体を動かすことの喜びや面白さを育てることが目的だと思いますか。	体育好き 3.55±0.50	n.s.
		体育嫌い 3.48±0.63	
問 28	体育の授業は運動量の確保を大切にすべきだと思いますか。	体育好き 3.42±0.60	n.s.
		体育嫌い 3.55±0.68	
問 29	体育の授業は個人差への対応を大切にすべきだと思いますか。	体育好き 3.33±0.50]**
		体育嫌い 3.65±0.49	
問 30	体育の授業は安全面への配慮を大切にすべきだと思いますか。	体育好き 3.91±0.28	n.s.
		体育嫌い 3.84±0.37	
問 31	体育は学校の勉強の中で必要な教科だと思いますか。	体育好き 3.88±0.40	n.s.
		体育嫌い 3.74±0.51	
問 32	他の教科では教えられないことを教科体育では教えられると思いますか。	体育好き 3.59±0.60	n.s.
		体育嫌い 3.58±0.56	
問 33	課外で自由にスポーツができるならば体育は教科に加えなくても良いと思いますか。	体育好き 3.49±0.74	n.s.
		体育嫌い 3.26±0.82	
問 34	教科体育は子どもの豊かな心を育てると思いますか。	体育好き 3.45±0.61	n.s.
		体育嫌い 3.32±0.70	
問 35	教科体育が人間形成に果たす役割は大きいと思いますか。	体育好き 3.39±0.57	n.s.
		体育嫌い 3.23±0.72	
問 36	体育という教科は他の教科に比べて異質なものだと思いますか。	体育好き 2.86±0.86	n.s.
		体育嫌い 2.68±0.75	
問 37	体育の授業の時間数は十分だと思いますか。	体育好き 2.04±0.78	n.s.
		体育嫌い 2.00±0.82	

**p<0.01

問 33、36、37 は逆転項目

4. まとめ

以上、小学校教師を体育好き群と体育嫌い群に分けて、子どもを体育嫌いにさせる教師行動に関するアンケート調査の結果を提示し考察を行った。その結果、それぞれの群について以下のような傾向が見られた。

体育好き群では、体育の授業において子どもが嫌がる言葉を使ったり、勝敗をつけたり競争をするような内容を多く行う傾向があった。体育嫌い群では、体育の授業で子どもの自主性に任せた運営をあまり取り入れない傾向があった。

体育好きの教師は自身が体育が好き、あるいは運動が得意だったために、そうした体験にもとづいた体育の楽しさを知っている反面、体育や運動に苦手意識を持つ人々への眼差しや気持ちの理解が必ずしも十分ではないため、子どもを体育嫌いにさせる教師行動に陥る可能性を孕んでいる。体育嫌いの教師は、体育や運動に対するネガティブなイメージから脱することができれば、より楽しさや面白さを子どもたちに伝えることができるであろう。

今回の調査では、個人的な体育の好き嫌いに関わらず、総じて教科体育に対する否定的見解は見られず、

プロ意識の高い教師たちであった。

今後は、予備調査の結果も踏まえながら、教師になる前の学生のうちに、すなわち教員養成の段階において、体育嫌いの学生にはいかにしてそのイメージを払拭させるか、また体育好きの学生には運動が苦手な子どもたちへの眼差しをどのように育てていくかが課題であろう。

註

本研究の予備調査として教員を目指す大学生を対象に同様のアンケート調査を行った（男子67名、女子65名の計132名）。回答結果を巻末に参考資料として掲載する。なお、プロフィールに関する内容については省略した。小学校教員に対して行った調査の「指導方法に関する内容」については、大学生には小学校の時に受けた体育授業を思い出して回答するよう求めた。質問項目のうち、教員としての指導経験がないと答えられない設問は除外した。体育好き・体育嫌いの内訳は表5のとおり。

表5 体育好き・体育嫌いの内訳（大学生）

	体育好き	体育嫌い	全体
人数(人)	94	38	132
割合(%)	71.2	28.8	100

引用文献

- 1) 岡野昇・山本俊彦（2003）：現代の子どもと教師の体育に対する意識調査、三重大学教育学部研究紀要、54、33-43.
- 2) 賀川昌明・竹岡伸一（2002）：小学校高学年児童の体育授業に対する好感度を決定する要因分析、鳴門教育大学学校教育実践センター紀要、17、159-165.
- 3) 阪田尚彦（1989）：体育が嫌いな子を好きにさせる教授技術、体育科教育、1989年11月号、28-30.
- 4) 伊藤精男・波多野義郎（1982）：体育嫌いの生起に関する因果推論の試み、体育学研究、27(3)、239-246.
- 5) 兵頭寛・河野昭（1992）：体育嫌いを生起させる要因の研究、愛媛大学教育学部紀要、17、159-165.
- 6) 秦泉寺尚・飯野透・太田黒保宏・山本栄二（1993）：宮崎県における体育・運動嫌いの実態と嫌いにさせる要因に関する研究、宮崎大学教育学部紀要、74、23-43.
- 7) 前掲6)
- 8) 前掲6)
- 9) 前掲1)
- 10) 前掲6)
- 11) 前掲6)

参考資料

資料1 小学校時の体育授業に関する内容についての回答結果(大学生)

質 問 項 目		平均±標準偏差	t検定
問5	先生は子どもたちと一緒に運動をよくしていましたか。	体育好き 3.15±0.72] **
		体育嫌い 2.71±0.73	
問6	先生は「これをしなさい。」などの一方的な授業ではなく、子どもたちが主体になって考え子どもたちに任せた授業をしていましたか。	体育好き 2.77±0.74] **
		体育嫌い 2.32±0.57	
問7	勝敗をつけるなど、競走をする授業が多かったですか。	体育好き 2.16±0.72	n.s.
		体育嫌い 2.24±0.68	
問8	グループで協力して行う授業が多かったですか。	体育好き 2.93±0.72] *
		体育嫌い 2.61±0.82	
問9	先生はできる子とできない子を同じように指導していましたか。	体育好き 2.35±0.73] *
		体育嫌い 2.68±0.87	
問10	先生は子どもたちをよく褒めていましたか。	体育好き 3.21±0.67] *
		体育嫌い 2.89±0.73	
問11	先生は体育の授業時間以外に、苦手意識を持つ子どもを教えていましたか。	体育好き 2.27±0.89	n.s.
		体育嫌い 2.03±0.75	
問12	先生は子どもたちの意見を尊重していましたか。	体育好き 3.00±0.70] ***
		体育嫌い 2.55±0.60	
問13	先生はできない子どものために十分な時間を割り指導をしていましたか。	体育好き 2.55±0.76	n.s.
		体育嫌い 2.34±0.71	
問14	先生はどの子どもにも真剣に教えていましたか。	体育好き 3.34±0.65] *
		体育嫌い 3.08±0.75	
問15	先生はどの子どもにも話しかけていましたか。	体育好き 3.16±0.79	n.s.
		体育嫌い 2.97±0.75	
問16	先生は子どもの魅力を引き出すような授業を行っていましたか。	体育好き 2.90±0.72] **
		体育嫌い 2.50±0.69	
*p<0.05、**p<0.01、***p<0.001			問7、9は逆転項目

資料2 体育の位置づけに関する内容についての回答結果(大学生)

質 問 項 目			平均±標準偏差	t検定	
問 17	体育の授業は健康な身体をつくり、体力をつけることが目的だと思いますか。	体育好き	3.11±0.66	n.s.	
		体育嫌い	3.00±0.70		
問 18	体育の授業は仲間作りをすることが目的だと思いますか。	体育好き	3.23±0.72	n.s.	
		体育嫌い	3.00±0.62		
問 19	体育の授業は協力・助け合いなどの社会性を身に付けることが目的だと思いますか。	体育好き	3.33±0.68]	*
		体育嫌い	3.05±0.66		
問 20	体育の授業は運動技能を身に付けることが目的だと思いますか。	体育好き	3.02±0.70	n.s.	
		体育嫌い	2.92±0.63		
問 21	体育の授業はストレスの発散、気晴らしをすることが目的だと思いますか。	体育好き	2.89±0.82	n.s.	
		体育嫌い	2.66±0.71		
問 22	体育の授業は身体活動を拡大することが目的だと思いますか。	体育好き	3.22±0.67	n.s.	
		体育嫌い	3.11±0.61		
問 23	体育の授業は身体を動かすことの喜びや面白さを育てることが目的だと思いますか。	体育好き	3.63±0.53]	***
		体育嫌い	3.26±0.50		
問 24	体育の授業は運動量の確保を大切にすべきだと思いますか。	体育好き	2.95±0.74]	*
		体育嫌い	2.66±0.67		
問 25	体育の授業は個人差への対応を大切にすべきだと思いますか。	体育好き	3.36±0.62	n.s.	
		体育嫌い	3.53±0.51		
問 26	体育の授業は安全面への配慮を大切にすべきだと思いますか。	体育好き	3.70±0.50	n.s.	
		体育嫌い	3.71±0.46		
問 27	体育は学校の勉強の中で必要な教科だと思いますか。	体育好き	3.72±0.54]	***
		体育嫌い	3.16±0.73		
問 28	他の教科では教えられないことを教科体育では教えられると思いますか。	体育好き	3.68±0.51]	**
		体育嫌い	3.37±0.67		
問 29	課外で自由にスポーツができるならば体育は教科に加えなくても良いと思いますか。	体育好き	3.09±0.96	n.s.	
		体育嫌い	2.87±0.78		
問 30	教科体育は子どもの豊かな心を育てると思いますか。	体育好き	3.37±0.62]	*
		体育嫌い	3.08±0.78		
問 31	教科体育が人間形成に果たす役割は大きいと思いますか。	体育好き	3.30±0.75	n.s.	
		体育嫌い	3.09±0.78		
問 32	小学校で受けてきた体育の授業の時間数は十分だと思いますか。	体育好き	1.98±0.78	n.s.	
		体育嫌い	1.92±0.75		

*p<0.05、**p<0.01、***p<0.001

問 33、36 は逆転項目